



▲受賞おめでとうございます。

教育・文化関係表彰 優秀教職員の部

明和小学校主査 舟木希氏 受賞

全国1位相当に活躍をした児童生徒や学習指導などで顕著な功績を上げた教職員を特別功労者としてたたえる「令和5年度教育・文化関係表彰」において、舟木希明和小主査が優秀教職員に選ばれました。

舟木希氏は、会計事務の効率化・スリム化によって教職員の多忙化解消や、保護者が各種補助金を活用する際の負担軽減に努めました。また、県小中学校事務研究会で中心となり、職員の意識と資質向上に貢献したことなどが認められ、受賞となりました。

自主活動で災害義援金を募る

只見中学生徒会 能登半島地震災害義援金を贈る

只見中学校の生徒会は、2月9日に日本赤十字社を通じて、能登半島地震の災害義援金を贈りました。同日、義援金を贈ったことを、只見中学校に来校した町教育長に報告しました。

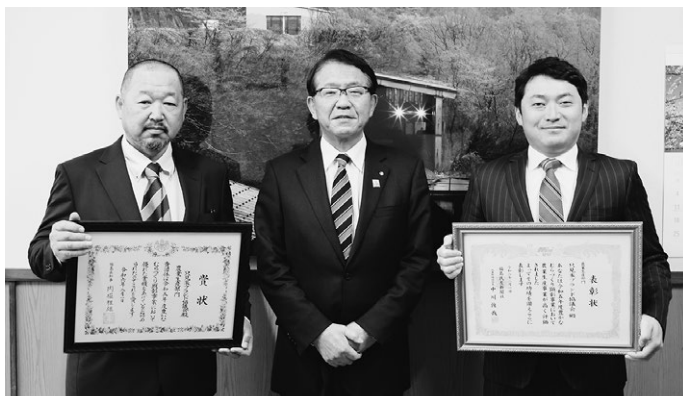
生徒会は自主活動として、全校生徒に義援金をつくり、保護者の協力も得ながら、義援金3万4,800円を集めました。



▲義援金を集めた生徒会の皆さん

「想いを継承ぐ！只見のお米を次世代へ」

只見米ブランド協議会 豊かなむらづくり顕彰 受賞



▲受賞報告をした山内征久会長と(有)さんべ農園の三瓶陽太さん

只見米ブランド協議会が、「令和5年度豊かなむらづくり顕彰」を受賞しました。

只見米ブランド協議会では、安心安全な米を生産販売する事業や、次世代の子どもたちに只見町のすばらしさを継承していく事業などを行っています。また、町内外の消費者に只見米の美味しさのPRと地産地消に寄与する展示即売会「只見米フェス」の開催などを行っていることなど、地域農業の振興と地域活性化に大きく貢献していることが受賞につながりました。

【只見米ブランド協議会】

只見の自然環境を守っていく米作りを継続したい、代々受け継がれてきた米作りの大切さを次世代の子どもたちへ継承したいという思いを共有する水稻生産者6者（株）伊南川、（有）さんべ農園、（株）R I S E S A P E U R、馬場由人、（株）新国農園、（同）ねっか）によって設立されました。

鬼は外 福は内 かるがもクラブ 節分イベント



▲最後は退治した鬼が戻ってきて記念撮影しました

第9回かるがもクラブは2月2日に開かれ、6組の親子が参加しました。

始めに民生児童委員から、節分の由来について解説が行われました。その後、親子のふれあい遊びなどを行っている所に青鬼が現れ、参加者は豆に見立てたボールで鬼退治をしました。鬼に驚き泣き出してしまう子どももいましたが、なんとか鬼を退治して、最後には節分のお菓子や果物を貰いました。

保育所でも鬼退治 3保育所で豆まきが行われました

町内3保育所は、2月2日に豆まきを行いました。先生から保育所児童に節分や豆まきの由来などの説明が行われた後、お遊戯などしていると鬼がやってきました。

鬼のものすごい迫力に泣き出す児童もいましたが、すかさず、豆に見立てたボールを鬼に当て、鬼退治をしました。只見保育所では、鬼退治後、さくら組の児童が各組のお部屋や職員室などに豆まきをして、邪気を払い、福を呼び込みました。



▲鬼退治をする子どもたち

今年は高校生も参加しました 只見町ESD地域成果発表会



▲災害での経験を後世に伝えていくことの重要性を伝えた只見高校生

令和5年度只見町ESD地域成果発表会が、2月10日に行われ、町内小中学校と只見高校、株式会社RISESAPPEURの目黒大輔氏、森林の分校ふざわの藤沼航平氏の7組が、ESDを通して発見した課題やそれに対する対応策、また地域との取り組みなどについて発表しました。

今回からは、只見高校生(自然防災班)が初参加し、総合的な探究の時間を通して学んだ福島・豪雨災害のことや、今後も襲い来る可能性がある災害に備えるために何をすべきかなどについて発表しました。

各発表とも、質疑応答が行われ、発表者、来場者が共に考えを深めることができました。

また、会場内には、只見高校生の自然防災班以外の班の発表も掲示されました。